

国際的視野で人間をとりまく自然とその上に築かれる文化を探究する野外環境教育のパイオニア

タイ環境学習キャンプ

その歴史と成果と意義

自然文化誌研究会

中込 貴芳

自己紹介

- 1957年生まれ
- 大学時代は新聞会として活動、冒険探険部と自然文化誌研究会の合同の際にINCHの活動に加わる。
- 東京学芸大学D類美術科卒
- 1984年 第1次中国遠征参加
- 1985年 インドネシア学術探険予備調査隊参加
- 1988年 公開講座 子供のための冒険学校に参加・北岳登山
- 1990年 冬季北八ヶ岳登山
- 1993年 中央アジア学術調査隊参加
- 1995年 ラジャパト大学・学芸大学合同キャンプ参加



第1次中国遠征



登山道整備



中津川 村祭の復活



北岳 登山

トウンヤイ・ファイ・カ・ケン

野生生物保護区

バンライ

(パンダキャンプ)

シーナカリン国立公園

カンチャナブリー

バンコク

バンブー保養地

ホアヒン

(マングローブ林)

ポーラペッド湖

(タイ最大の淡水湖)

ロッブリー

カオヤイ

国立公園

アユタヤ

パタヤ

タイ中部





ミャンマー国境

チュンポン

タイ南部

タイ環境学習キャンプの歴史とその活動

- 1995年にラシャバト・プラナコン大学と東京学芸大学の環境学習の合同キャンプとして始まる。
- 2024年までにコロナ期の中断を除けば、ほぼ毎年1回、計24回に渡り実施されてきた。
- 大きく三つの時期に分けられる。



ラダワン女史

第1回合同キャンプの記念写真

学習キャンプの三つの区分

- 1995年第1回～2002年第6回
タイ日ネイチャークラブ (TJクラブ) 時代
(大学の合同キャンプ時代)
- 2003年第7回～2017年第20回
タイ日ネイチャークラブ、パンダキャンプ
(INCH Panda Camp)交流併存時代
- 2018年第21回～2024第24回
パンダキャンプ (INCH Panda Camp)交流時代

※パンダキャンプ..元WWFだったシリポン氏がバンライ

に設立した私設の環境学習施設。パンダの名前はWWFから来ている

※タイ日ネイチャークラブ..タイの環境学習の先生とINCHが1999年に設立した環境学習交流クラブ



カオヤイ国立公園の看板の前で



サイチョウの観察会



大学のネイチャークラブの展示

第1期 大学の合同キャンプ時代 (1995年～2002年)

- 本会木俣とタイの環境学習の第一人者であるラダワン女史が知己を得たことから、ラジャバト大学と東京学芸大学の学生が共同でタイ各地の国立公園や環境学習施設や学校を回りタイの環境学習や環境保護について研修するキャンプとして始まり、ラダワンさんを会長とするタイ日ネイチャークラブ（TJクラブ）の設立につながりキャンプを重ねた。

- 実施場所：

- 地区

- バンコク・チェンマイ・カンチャナブリ・ホアヒン・チュンポン・バンライ周辺など

- 国立公園

- カオヤイ国立公園・ドイ・インタノン国立公園・シーナカリン国立公園・トゥンヤイ・ファイカケン野生生物保護区・ムーコチュンポン国立公園など

- 施設

- ラジャバト大学環境学習施設・各地の学校や環境施設など



ドイ・インタノン国立公園



カオヤイ国立公園の吊橋



チュンポンの海岸



チェンマイ

- 実施内容

- サイチョウの観察
- ナイトサファリ
- トレイルハイキング
- 交流会



サムット・ソングラームのマングローブの植林



カオヤイ国立公園 動物園の足形取り

- マングローブエリアの観察・植林
- 環境学習プログラムの実施・研修
- 学校や施設での環境学習・環境保護の実情視察
- 環境学習教材（サイチョウのパズルと双六、満グローブ学習のトランプ）の開発 など



シー・ナカリン国立公園のトレイル



小学校訪問



カオヤイ国立公園 夜のワークショップ



カオヤイ国立公園 絞め殺しの無花果の木



カオヤイ国立公園 サイチョウの研修会



チェンマイ タイ舞踊を踊る



マングローブ林のトレイル

第2期 タイ日ネイチャークラブ、パンダキャンプ併存時代 (2003年～17年)

- 2003年に地方都市のバンライを訪問した際に、地域の環境学習を実践しているパンダキャンプという施設を主宰しているシリポン氏と出会い、一箇所に定着した形での環境学習や少数民族の文化や知恵を学ぶ取り組みをはじめた。その一方でタイ日ネイチャークラブと（TJクラブ）としての大学の学生や先生方とワークショップを実施するなどしてタイの環境学習について学ぶ取り組みが併存した時代。

- 実施場所：

- 地区

- バンコク周辺・バンライ・ロッブリーなど

- 国立公園

- トウンヤイ・ファイ・カ・ケン野生生物保護区

- 施設

- パンダキャンプ、ラジャバト大学環境学習施設



ロッブリーの大学の施設



バンライの教員研修施設



シリポン氏



果樹園の見学



ワークショップの後の記念撮影

- 実施内容

- パンダキャンプでの小学生対象のワークショップの実施や住民とのテーマを決めたワークショップの実施
- カレン、ラオ等の少数民族や地区住民とのワークショップの実施
- 少数民族の集落や地区の農家への訪問
- ファイカケン野生生物保護区やその周辺での環境保護の取り組みの学習
- 野生動物保護区での自然観察
- タイ日ネイチャークラブとして大学の施設におけるワークショップの実施
- バンコク周辺のマングローブエリアでの自然観察



ファイカケン国立公園



ネイチャートレイルの入口



ファイカケン国立公園 渡渉



ワークショップ

少数民族の集落訪問（脱穀）



動物の塩場に塩を補給



シロアリ塚



竹小屋作り



環境保護の父スーパナカサティアンの銅像

第3期 パンダキャンプとの交流(INCH PANDA CAMP)時代 (2018年～2024年)

- 交流対象をバンライのパンダキャンプを中心に据えて、子供むけのワークショップの実施し、バンライ周辺のカレンやラオの少数民族や地域の農民の文化や自然との関わりを学習・調査することと、ファイカケン野生動物保護区の環境保護を学び、自然観察を深めることを主な活動としている時代。

- 実施場所：

- 地区

- バンコク周辺・バンライ国立公園
 - トウンヤイ・ファイカケン野生生物保護区

- 施設

- パンダキャンプ



バンダキャンプのワークショップ



● 実施内容

- パンダキャンプでの小学生対象のワークショップの実施（顕微鏡作りなどの化学実験、ネイチャーゲーム、パネルシアター等）
- カレン、ラオ等の少数民族や地区住民とのテーマを決めたワークショップの実施（アイヌ、蜂蜜、きのこ、陸稲、ホームガーデン、ハーブ等）
- 少数民族の集落や地区の農家への訪問
- ファイカケン野生生物保護区やその周辺での環境保護の取り組み（レンジャーによる説明、保護施設訪問等）
- 野生動物保護区での自然観察（バードウォッチング、観察塔での野生動物観察、奥地探検、トレイルハイキングなど）
- ファミリーフォレストやハーブ、施設の運営などのパンダキャンプの取り組みの学習



ファイカケン国立公園の湖



ファイカケン国立公園 ゾウの観察



バンライの少数民族の家訪問



バンライの農園訪問

※ファミリーフォレスト..シリポン氏が提唱してる環境保護の取り組み。自分の住居の周りに有用な多様な樹木や作物を植えて人間が利用するのみでなく、生物に優しい環境を創出すること目指している運動



Tham Than Pod National Parkの鍾乳洞



ファイカケン野生生物保護区の最深部



おにぎり作り



地元ミュージシャンによるナイトコンサート

タイ環境学習キャンプで得られるもの

タイの自然環境 を学ぶ

- ・動植物の生態を学びその多様性を理解する。（ゾウなどの動物、サイチョウなどの鳥類、昆虫、植物、菌類等）
- ・動植物が生活している環境について知る（森林、農地、水辺など）
- ・動植物が生活している気候について学ぶ

タイの自然保護の 取り組みを学ぶ

- ・国立公園やその周辺での環境保護の取り組みに学ぶ。
- ・パンダキャンプの取り組みについて学ぶ（環境学習プログラム・ファミリーフォレストなど）
- ・大学などの教育機関での環境学習について学ぶ。

少数民族の 文化や智恵 について学ぶ

- ・少数民族の住居について学ぶ（竹を利用した高床式の住居等）
- ・少数民族の産業について学ぶ（焼畑、ゴム、キャッサバ、米栽培、等）
- ・生活、食文化について学ぶ（民族衣装、米、雑穀、など）
- ・宗教や信仰について学ぶ。

ワークショップの 実施と 地元住民との交流

- ・ワークショップの実施に要る生徒や住民との交流
- ・ナイトコンサートなどを通じた音楽交流
- ・バンダキャンプを訪れる人々との会話
- ・市場での買い物による住民との交流
- ・大学の先生や学生との交流

自己の環境課題の相対化とグローバル化

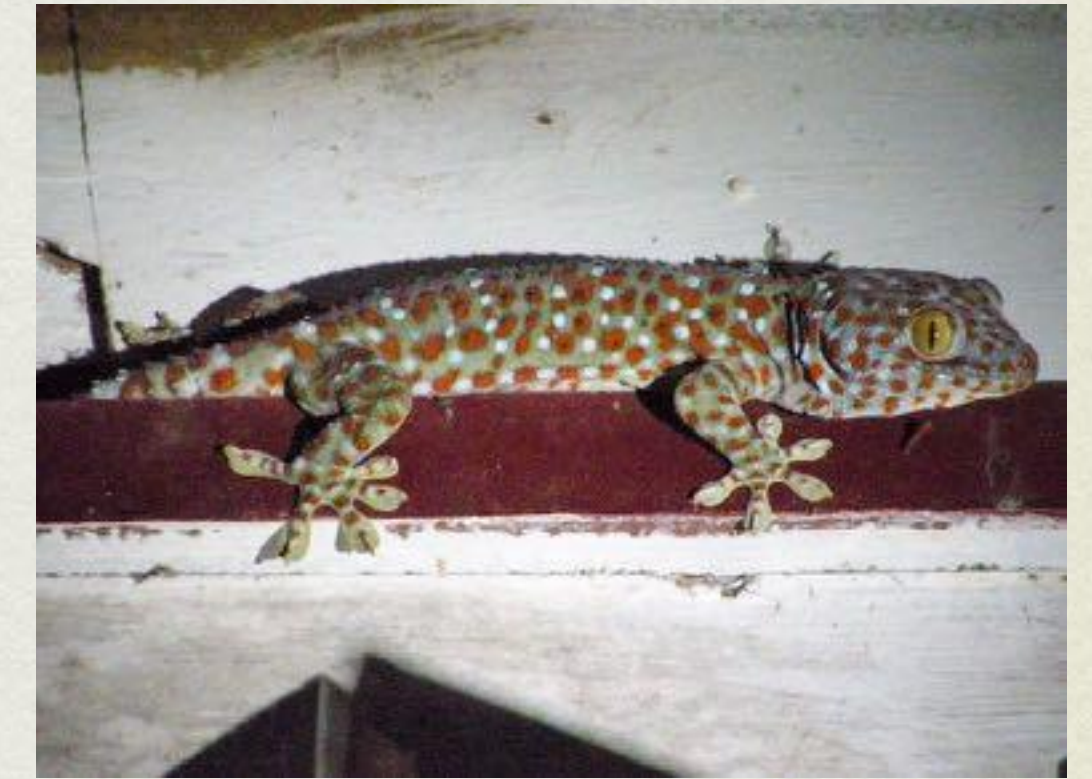
- ・日本だけでなくタイの環境保護や環境問題、環境学習の取り組みを学ぶことによって自らの考え方や実践を相対化し、地球規模での環境保護のあり方を考え実践していく契機となる。
- ・タイの文化や生活を知ることによって、自然と人間が関わる中でこれまで築き上げてきた文化や多様性をることによって、少数民族を含むすべての人々のを尊重し共存していくあり方を考える契機となる。



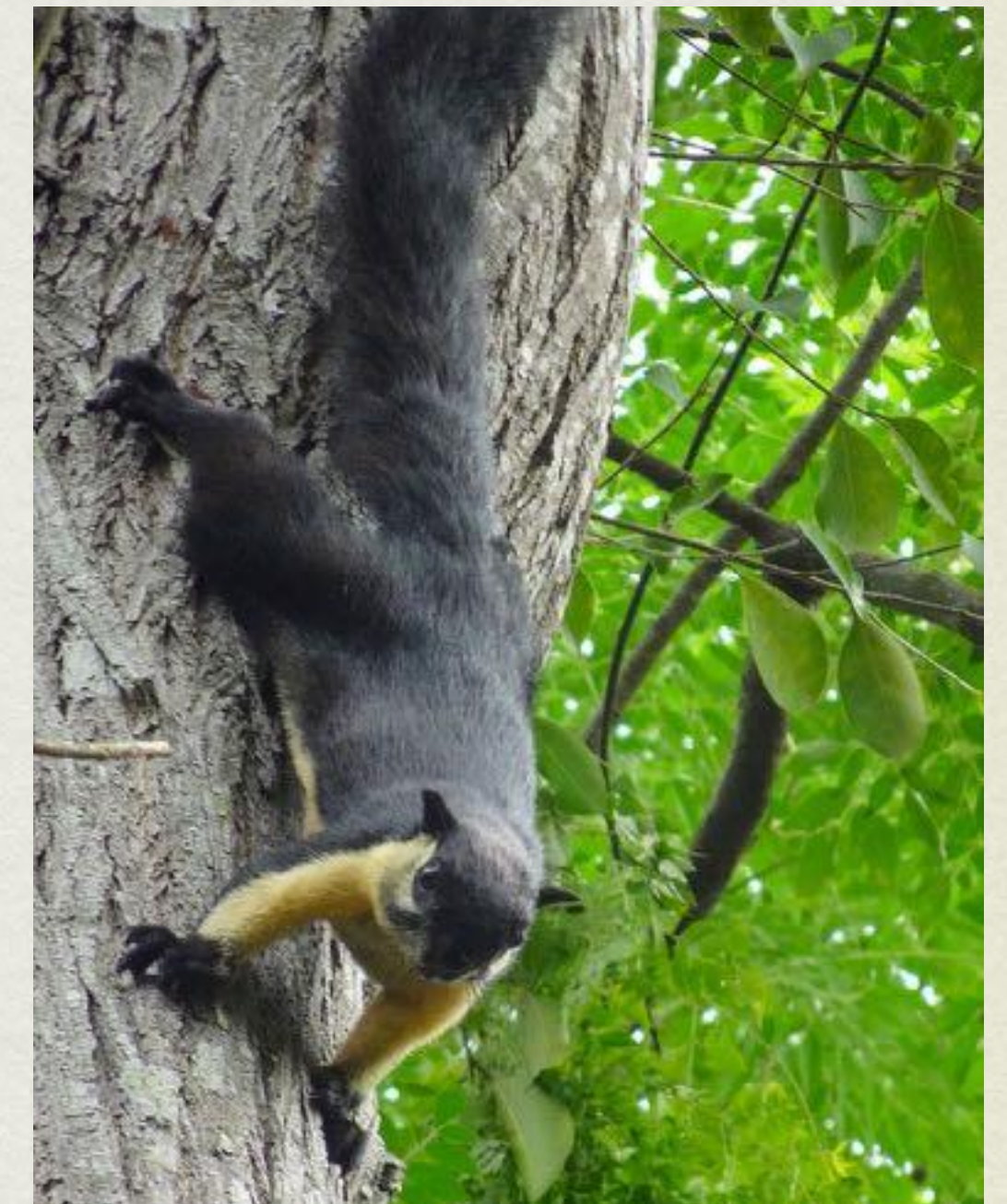
バンテン



アジアゾウ



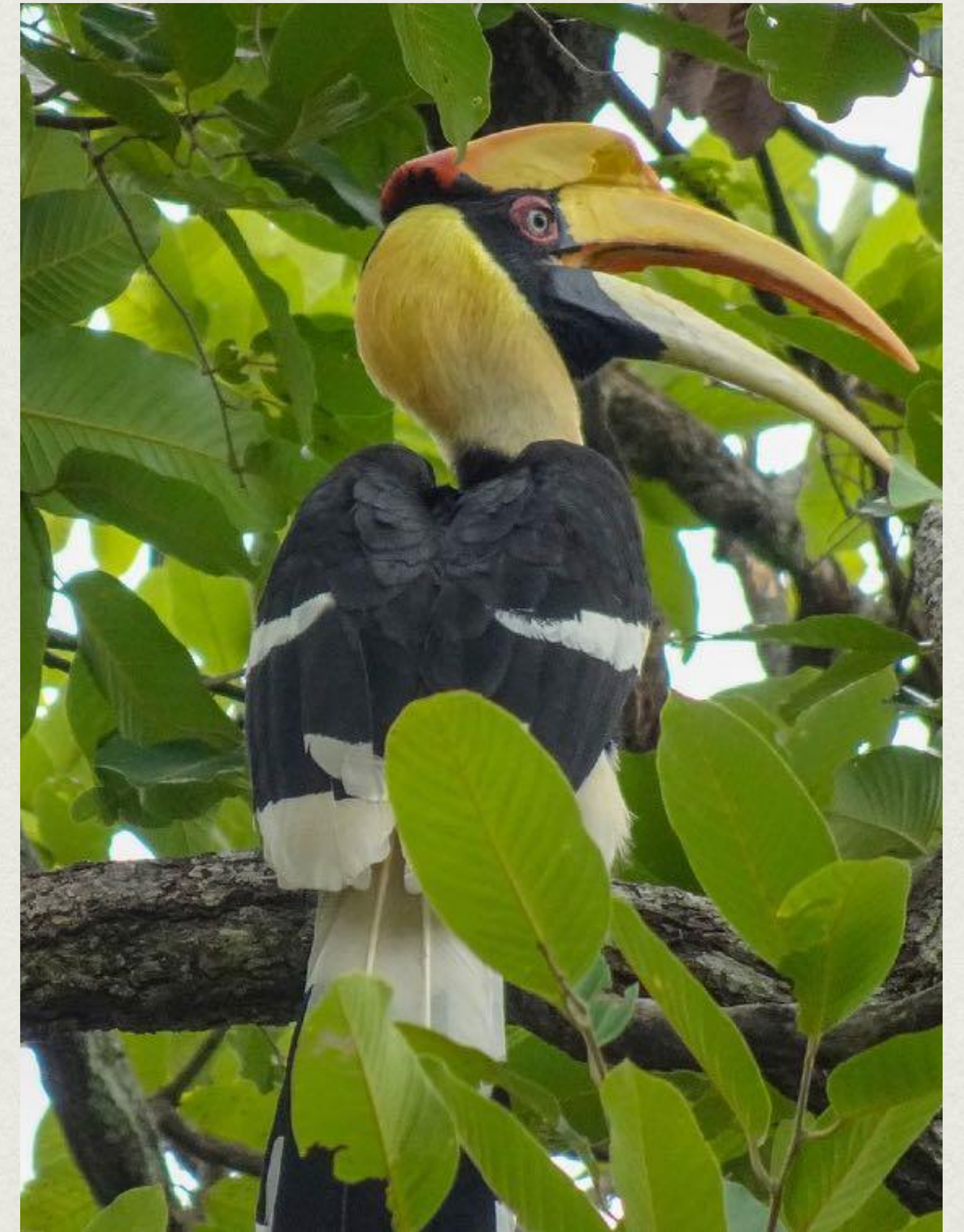
トッケイ



大黒リス

今後の課題と展望

- ・長く続けてきた活動なので、地元の人々との交流も深まっているが、やや形式的になっている側面も否めない。今後、現在の活動をどのように展開し深めていくのか？
- ・タイで学んだことをまとめたり、積極的に発信したりすることがこれまでややもすると不十分でだったと思う。ファミリーフォレストなどのバンダキャンプ活動は、日本の環学習活動にとっても、大変有用な視点を提供してくれていると思う。今後、日本での活動にどのように活かしていけるかが課題である。
- ・現在、バンダキャンプにおいては、シリポン氏の子供たちが彼が築いてきた活動を引き継ごうとしているし、INCHにおいても冒険学校等で若い世代の活躍が見られるようになっている。大上段に理念を振りかざすのではなく、かといってマンネリに陥らずに地道に活動を継続していくことが求められていると思う。



オオサイチョウ



タランチュラの素揚げ



“ご清聴ありがとうございました”